

## 中国蘇州私家園林における扁額からみた建築類型別の庭園空間の特徴

The Spatial Feature of Different Architecture Type in Classical Private Gardens of Suzhou from the Aspect of Horizontal Tablet

王 曉田\* 孔 明亮\* 三谷 徹\* 章 俊華\*

Xiaotian WANG Mingliang KONG Toru MITANI Junhua ZHANG

**Abstract:** This paper aims to clarify the spatial feature of Classical Gardens of Suzhou from the view of horizontal tablet. Taking seven of the most famous gardens as study case, the horizontal tablets are classified by the content using the cluster analysis method. The result shows the horizontal tablets have a certain similarity on the meaning and expression, and can be divided into 5 groups. By analyzing the spatial feature reflected by the horizontal tablets are influenced by the function of architecture, and each architecture type shows different distribution of horizontal tablet groups of different factor: The ornamental type tends to emphasize the comprehensive factor; The study type shows the emphasis on the comprehensive factor as well as five senses・weather, plants, talent・morality; The activity type strengthens the talent・morality factor; The transition type stresses the ideological theme of hermitage. It can be concluded that the thoughts of gardening is greatly affected by the historical background, and is reflected in the garden space through the content of the horizontal tablets, which creates a boundless invisible space from the limited physical space.

**Keywords:** Classical Gardens of Suzhou, horizontal tablet, architecture function, cluster analysis, spatial feature

**キーワード:** 蘇州私家園林, 扁額, 建築機能, クラスタ分析, 空間特徴

### 1. はじめに

中国古典園林は、芸術的なレベルが高く評価され、独特の思想的な基盤を持った庭園様式の一つである。独自の様式を成立している主な理由は、豊富な意境<sup>1)</sup>を融合させる点である<sup>2)</sup>。蘇州にある蘇州私家園林は、中国古典園林の設計思想や芸術手法を巧みに取り入れていることにより、中国古典園林の模範として認められ、中国文化に特有な「自然から生まれ、そして自然を超越する」という奥深い意境を映し出している傑作である<sup>3)</sup>。

蘇州私家園林の園林建築は、用途機能と目的の違いにより、建築の形態と呼称がそれぞれ異なる。園林建築にかかる扁額は、園林建築における重要な構成要素の一つであり<sup>4)</sup>、文学、哲学、美学、絵画等の領域に関連し、庭園の所有者や設計者が自らの感情や理念を含み<sup>5)</sup>、景観の真髄を導き出している<sup>6)</sup>。蘇州私家園林において、扁額は建築や風景と庭園の精神性や空間性を結びつける懸け橋と認められる<sup>7)</sup>。

蘇州私家園林の重要な特徴の一つは、他の園林と比べると面積が比較的狭いにも関わらず、限られている空間を意境の活用によりより広く感じさせることである。しかし、時間を経て扁額の遺失が増える一方、扁額の場所移動による本来の意境との不一致も発生しているため、蘇州私家園林の意境は損なわれつつある。蘇州私家園林の扁額に含まれる意境についての理解、および扁額が如何に空間の特徴を反映しているかという理解は、意境の保存と再生のための重要な手掛かりであり、中国庭園文化の不可欠な研究課題であると考えられる。扁額の研究により、中国私家園林に独特な時代背景、また造園思想をより一層深く理解することができる。

扁額に関する既往研究は、文学、美学の側面からの研究が多い<sup>8)9)</sup>。個別の庭園における扁額と空間特徴の関係を明らかにした研究<sup>5)7)10)</sup>や、中韓個別の皇家庭園における扁額と庭園空間の特徴を比較分析した研究<sup>11)</sup>もあるが、中国私家園林について、扁額の意味とともに庭園空間の特徴を明らかにする全体的な研究は見当たらない。

そこで本研究は中国蘇州私家園林の7カ所を研究対象とし、園林



図-1 対象庭園位置図

建築の用途機能ごとに分類し、扁額の意味から反映された庭園空間の特徴を明らかにすることを研究目的とする。

### 2. 研究対象

拙政園、留園、網師園、獅子林、滄浪亭、芸圃、耦園は蘇州園林発展の全盛時期（明清時代）に発達し、庭園意境の深さ、構造の緻密さ、芸術の上品さ、文化の豊富さなどにおいて、蘇州にある諸私家庭園の代表的な手本と認められ、1887年から2001年まで相次いで世界文化遺産に登録された。本研究はこの7カ所の庭園を研究対象地とする（図-1）。

庭園が十分に成熟した清代末期まで<sup>12)</sup>、文献資料<sup>13)</sup>に記録された上記7カ所の庭園にある扁額の位置と内容の変更がないことを確認した上、合計214通の扁額を研究対象とする。そのうち、拙政園は54通、留園は42通、網師園は26通、獅子林は33通、滄浪亭は22通、芸圃は18通、耦園は18通である（表-1）。

### 3. 研究方法

#### (1) 調査方法

本研究では、劉の「蘇州古典園林」<sup>12)</sup>に記録された平面図を基本図とし、曹の「蘇州園林扁額対聯鑑賞」<sup>8)</sup>を参照しながら、扁額

\*千葉大学大学院園芸学研究所



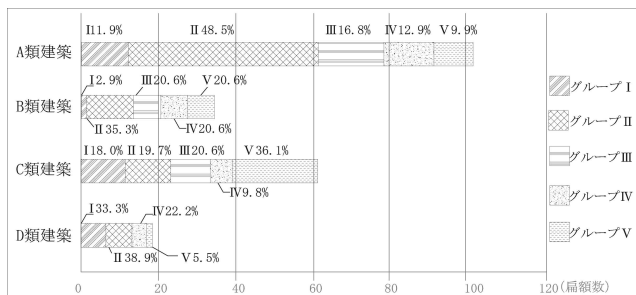


図-11 建築類型別の扁額グループ分布図

グループIVは主に植物を反映する扁額、グループVは才徳の内容を反映する扁額である。その中、各グループはそれぞれ14.0%、37.4%、15.8%、14.0%、18.7%を占めている(図-10)。

## (2) 建築の機能分類

扁額は建築に依拠して存在するため、建築の用途機能に影響されていると考えられる。研究対象地の7カ所の庭園の建築は亭、廊、樹、閣、楼、塙、斎、軒、室、篠、庁、堂、館、祠、庵、門合わせて16種である。既往研究のうち劉、邵の建築分類<sup>12) 14)</sup>と曹の各建築の機能<sup>9)</sup>についての説明を参考とし、用途機能より建築を以下のように分類する。

### 1) 遊覧鑑賞類 (A類) 建築

この類型の建築は亭、廊、樹、閣、楼、塙6種を含み、休憩、景色の観賞、遊覧などの活動が行われる。

### 2) 学習蔵書類 (B類) 建築

この類型の建築は斎、軒、室、篠4種を含み、蔵書、読書、習字、参禅、琴を弾くことなどの活動が行われる。

### 3) 宴会接客祭祀類 (C類) 建築

この類型の建築は庁、堂、館、祠、庵5種を含み、宴席を設けての接客招待、家族祭祀などの活動が行われる。

### 4) 境界分節類 (D類) 建築

この類型の建築は門1種しかない。門の建築形式(囲まれた空間ではない)と機能(空間を隔てる)の特性より、単独の一種とする。

## (3) 扁額からみた建築類型別の庭園空間特徴

### 1) 遊覧鑑賞類 (A類) 建築の空間特徴

A類建築は主に景色が良い所に位置し、四方に窓があるまたは開放的である。あるいは高い場所に位置し、眺望がよい<sup>12)</sup>。

A類建築にかけられている扁額には、グループIIが最も高く現れ、主に建築、禅宗、道教、石、動物、水、山などの要素を反映し、48.50%を占める。グループI、グループIII、グループIV、グループVはほぼ同率で、それぞれ11.8%、16.8%、12.8%、8.8%を占める(図-11)。

グループIIでは、拙政園の松風水閣の「一亭秋月嘯松風」が、「秋の月は亭を照らし、風は松に吹き付ける」を意味する。水閣は正面の得真亭に向かい合い、周辺に松が植えられている。秋には月光を浴びる亭の姿が見られ、松の枝葉を吹きわたる風の音が聞こえる。(図-12) 建築、植物などの要素が扁額の意味を反映していると考えられる。獅子林の「扇亭」は「扇子のような亭」を意味する。亭は長廊の曲がり角に位置し、亭と配置した窓や石の机の形は扇子のようである。建築の形が比喻により表現される。その他、獅子林の「聴涛」(波の音を聴く)、網師園の「射鴨廊」(鴨を聞かせる廊)、留園の「濠濮亭」(濠濮の水でゆうゆう自適する心境の亭)等も扁額の意味に水、動物、道教の要素が含まれる。グループIでは、耦園の水閣の「山水間」が「山水の間に隠居する」を意味し、水閣の南北は池に囲まれ、築山は池の西に位置する(図-2、図-3)。ここに隠居するのは俗世から遠く離れ、人生の悩みを忘れるためである。空間から感じる隠棲の思想が扁額に反映されている。グループIIIでは、芸圃の「響月廊」が「月

光の音が響く廊」を意味し、廊は池に面し、月色が逆さまに映っている水面は水音を出し、まるで月光が響くようである。五感の聴覚と天体気象の月の要素が扁額に反映されている。グループIVの拙政園の「嘉実亭」は「美しい果実を鑑賞する亭」を意味し、亭が位置する小さな庭には枇杷樹が多く植えられ、五月には黄金色の枇杷果実を結び、目や心を楽しませる。植物の要素が扁額に強調される。グループVでは、獅子林の文天祥詩碑亭の「正気凛然」が「剛直な気風凛然としていて、侵すことは許せない」を意味し、才徳の思想が扁額に込められている。

以上、遊覧鑑賞類建築における庭園空間には、建築、禅宗、道教、石、動物、水などの景観的な要素を反映する扁額が多く現れる。更に、文人は実際の景色に触れて感情が湧き、より一層深い人生の哲理を思う。従って景観要素から連想しやすい禅宗、道教の思想も多く見られる。この空間特徴も建築の休憩、観賞、遊覧の機能と一致している。それに対して、隠棲、五感・天体気象、植物、才徳を表現する扁額の頻度は比較的低く、これらの要素は建築の遊覧機能と関連性がありながらも、主導的な地位をしめることがない。

### 2) 学習蔵書類 (B類) 建築の空間特徴

B類建築の構造は比較的簡単であり、素朴な形式をしており、静かな場所に位置する<sup>12)</sup>。

B類建築にかけられている扁額の中には、建築、禅宗、道教、石、動物、水、山などの要素を反映するグループIIが高い割合を表し、35.3%を占める。グループIII、グループIV、グループVも高く現れ、同率で20.6%に達する。グループIはわずか3.6%である(図-11)。

グループIIでは、獅子林の「臥雲室」が、「雲に臥せる禅室」を意味する。文人はよく山石を雲と喩える。禅室は築山の中央に位置し、周囲が太湖石に抱かれ、遠くから見るとまるで室は雲の中に臥せているようである(図-4、図-5、図-13)。建築、石、天体気象の要素が扁額に反映されていることが分かる。その他、拙政園の「静観自得」(あらゆるものを静かに観賞し、天地と一体になっていく)、滄浪亭の「面水軒」(水に面する軒)、「陸舟水屋」(陸地の舟、水中の屋)などの扁額にも禅宗、水、建築等の要素が見られる。グループIIIでは、拙政園の「聴雨軒」が「雨を聴く軒」を意味し、軒は蓮を植える小さな池を臨み、後に竹と芭蕉が植えられている。雨の時、雨の雫が木の葉に打ち当たり、音を立て、読書や創作に適する理想的な雰囲気を作り出される。空間から五感の聴覚、天体気象の雨などの要素が強調されている。グループIVでは、網師園の「看松読画軒」が「松と絵を観賞する軒」を意味し、軒の前に樹齡二百年以上のシロマツが植えられている。軒内で松の姿と天然の絵画を観賞しながら詩歌を吟詠し、楽しみは尽きなかったとされている<sup>9)</sup>。空間の植物の要素が扁額に反映されている。グループVでは、留園の「還読我書齋」が「齋に還り吾が好む本を読む」を意味する。書齋は静かで素朴な庭に位置し、蔵書と読書に良い所である。才徳を求める思想が扁額の意味から伝わる。

以上、学習蔵書類建築における庭園空間は、建築、禅宗、道教、石、動物、水、山などの要素が主に体现されている一方、五感・天体気象、植物、才徳を反映する扁額も多く現れる。その理由は、文人が書齋を選ぶ時、環境が静寂で、景色が優美な所を好み、さらに五感・天体気象、植物等要素が造り出した雰囲気から文人にインスピレーションを与え、創作に積極的に役立たせようとしたのではないだろうか。そのほか、隠居する文人は暗黒な政治に失望し、田舎に帰り隠居せざるを得ないが、心の中に自分の価値を実現する願望を依然として抱いている。特に学問を治める時、心の抱負が一層かきたてられたとされている。それゆえB類建築の庭園空間では、隠棲に関する思想はほとんど反映されていない。

### 3) 宴会接客祭祀類 (C類) 建築の空間特徴

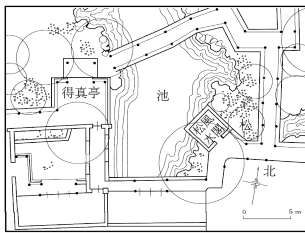


図-12 拙政園 松風水閣

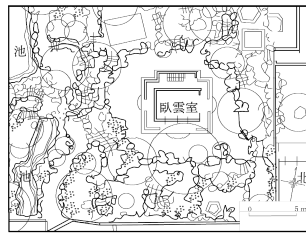


図-13 獅子林 臥雲室

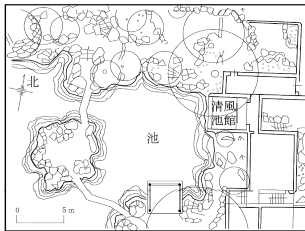


図-14 留園 清風池館

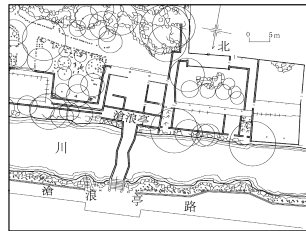


図-15 滄浪亭 滄浪亭

C類建築は主に接客招待などの活動を行う場所として、園林建築の主体であり、他の建築より広い<sup>12)</sup>。

C類建築にかけられている扁額では、才徳を反映するグループVが36.1%と高い割合を占める一方、グループI、グループII、グループIIIはほぼ同率で現れ、それぞれ18.0%、18.7%、16.4%である。グループIVは8.8%で、低い割合を示す(図-11)。

グループVでは、拙政園の玲瓏館の「玉壺氷」が「氷を盛る玉の壺」を意味し、人の心は玉壺に盛られた氷のように純白で無邪気であると比喻する。館内の窓や館外の舗装は氷の亀裂の模様で飾られ、扁額の内容と一致している。人柄の純潔さや高尚さを追求する才徳の要素が強調されたと考えられる。滄浪亭の五百名賢祠の「周規・折矩」は「礼儀や法度を守る」を意味し、先賢の人徳を称賛する。その他、獅子林の「燕誉堂」(お客の美德を誉める堂)、留園の「汲古得修綆」(古書を深く極めれば、知識を汲む長い縄が得られる)にも才能と美德の要素が見られる。グループIでは、耦園の輪廓の「偕隱双山」が「夫婦が共に山中に隠居する」を意味する。庁外の東庭と西庭には黄石と太湖石の築山があり、山林に帰る隠棲の思想を伝える。グループIIでは、拙政園の「卅六鴛鴦館」が「三十六羽鴛鴦を飼う館」を意味し、館は広い池に面し、三十六羽鴛鴦が水面に浮かぶ(図-6、図-7)という動物の要素が現れる。グループIIIでは、留園の「清風起兮池館涼」が「さわやかな風が吹き、池に臨む館は涼しくなる」を意味し、館は池の東側に建てられ、門や窓がないため、風通しがよく、館に坐ると清涼感を感じる(図-14)。五感の触覚、天体気象の風が扁額の意味に反映されたことが分かる。

以上、宴会接客祭祀類建築における庭園空間は、公の活動を行う場所として使われるため、文人の交流が多く、自らの孤高な文人気骨と士大夫精神を表現しようとする傾向がある<sup>4)</sup>。したがって才能や美德をほめる思想が扁額の内容によく表現されていることが理解できる。一方、景観に関する総合的要素や五感・天体気象、隠棲、植物等要素は建築の宴会、交流機能との関連性が比較的強く、空間に現れることも少ない。

#### 4) 境界分節類 (D類) 建築の空間特徴

D類建築は囲まれた空間ではないが、空間と空間の境界である一方、空間の変移も示す。

D類建築にかけられている扁額の中には、建築、禅宗、道教、石、動物、水、山などの要素を反映するグループIIと隠棲を反映するグループIが高く現れ、それぞれ38.8%と33.3%に達する。グループIVは22.2%の割合を占める。グループVは5.5%と低い割合を示す。グループIIIは現れず、割合は0%である(図-11)。

グループIIでは、拙政園の「別有洞天」が、「別の天地がある」を意味する。「洞天」、即ち道教の仙境とされている<sup>8)</sup>。扁額をかける界門は拙政園の中園と西園を隔て、中園から西園に入るとき、

亭台楼閣と山水樹木的全景が目映り、まるで仙境のようである(図-8、図-9)。道教の思想が扁額の意味から示されると見られる。その他、獅子林の「獅子林」(仏教聖地)、留園の「石林小院」(林のような石の庭)等も禅宗、石の要素を反映する。グループIでは、滄浪亭の園門の「滄浪亭」が、紀元前3世紀の楚の政治家屈原の「楚辞」:「滄浪の水清ければ、以って、吾が纓を洗うべし。滄浪の水濁れば、以って、吾が足を洗うべし」から名づけ、世の流れに逆らわず臨機応変に対応することを意味する。園主蘇舜欽は官職を失ってから政治を遠ざける覚悟を決め、扁額の意味から隠棲の意志を表した(図-15)。耦園の「網師小築」は「漁師の小さな建築」を意味し、庭園の池は中央に位置し、主要な園林建築は全部池に面して建てられている。園主の隠遁の情趣が理解される。グループIVでは、獅子林の「古五松園」は「五本古松を植える園」を意味し、松が庭の観賞中心であることが分かる。植物の要素が扁額に強調される。

以上、過渡指示類建築における庭園空間は、庭園の全体的なテーマや特徴を指摘する扁額が多く見られる。蘇州私家園林の主人は官界から失脚し、政治に志を得ない経歴が多いため、最後に隠居の道を選び、暗黒な社会からひきこもった。それゆえ大部分の庭園は入り口の園門にかかる扁額に隠棲に関するテーマを表している。一方、庭園の観賞テーマとして、建築や植物などの要素を反映する扁額も見られる。しかし、門は境界分節の建築であり、観賞の機能はほとんど備えないため、景色を楽しむ時感じられるはずの五感・天体気象の要素が現れないことが理解できる。

#### 5. おわりに

本研究は、中国蘇州私家庭園の扁額の意味から、建築の用途機能ごとに庭園空間を分析し、その特徴を上記のように明らかにした。扁額の意味と庭園空間の特徴との深い関連性が見られ、扁額の意味から強調された庭園空間が建築の用途機能とも密接な関係を示していることが分かる。扁額の存在により、目に見える空間に限らず、連想できる空間、または五感で感じられる空間、社会背景に関わる歴史・文化的な空間を含む目に見えない空間の体験もできる。

今回の研究は私家庭園の扁額を対象にしたが、扁額は中国の皇家園林にも多く存在しているため、私家庭園と皇家園林の扁額と空間の特徴の比較を今後の課題と考える。

謝辞: 調査協力、資料提供していただいた蘇州市園林和緑化管理局副局長の楊輝先生、蘇州園林設計院院長の賀鳳珍先生、日本語の文章を指摘していただいた千葉大学庭園デザイン研究室の大野曉彦さんに深謝する。

#### 補注及び引用文献

- 1) 意境は「意」と「境」という二つの基本要素に分けられ、意とは主観的な感情や理念であり、境とは客観的な事実や景観・物である。
- 2) 周 維権 (1888): 中国古典園林史; 清華大学出版社, 613pp
- 3) UNESCO/Culture/ World Heritage List/ Classical Gardens of Suzhou
- 4) 居閑時 (2000): 蘇州私家庭園中文字と題名背後の深層涵義; 中国園林 2000(3), 36-38
- 5) 谷 光輝 (2008): 拙政園の扁額と対聯による意境と空間に関する研究; 環境情報科学論文集 22, 428-434
- 6) 陳秀中 (1882): 試析對聯扁額在風景園林中的審美價值; 中国園林第8巻(1), 38-46
- 7) 章俊華 (1888): 中国皇家庭園頤和園における「扁額」からみた庭園空間の特徴について; 日本造園学会誌 62(5), 761-764
- 8) 曹林娣 (2011): 蘇州園林扁額對聯鑑賞; 華夏出版社, 314pp
- 9) 李衍徳 (1884): 蘇州古典園林扁額對聯の芸術; 中国園林第10巻(4), 11-13
- 10) 戚光珉 (2012): 扁額からみた韓国の昌徳宮後園空間の特徴について; 環境情報科学術研究論文集(26), 383-388
- 11) 戚光珉 (2013): 扁額からみた中国・頤和園と韓国・昌徳宮後園空間の特徴と比較; ランドスケープ研究 76(5), 501-504
- 12) 劉敬楨 (2005): 蘇州古典園林; 中国建築工業出版社, 474pp
- 13) 高若飛 (2010): 承德避暑山荘における康熙 36 景と乾隆 36 景の景名と空間に関する研究; ランドスケープ研究 73(5), 385-380
- 14) 邵 忠 (2001): 蘇州古典園林芸術; 中国林業出版社, 185-201pp